

2025年 ノース場ホッケ新規加入量調査速報（1）

北海道立総合研究機構稚内水産試験場調査研究部 黒川大智 電話：0162-32-7166

- トロール漁獲物は大型主体で、ローソクボッケ（0歳）はわずか
- 魚探調査における魚群数は近5年では最多だが大型魚主体の可能性

稚内水試では、毎年10月と11月の2回、稚内ノース場海域（図1）において、試験調査船北洋丸による計量魚群探知機調査と着底トロール調査（原則6回曳網）を実施しています。

本速報では、2025年10月2～7日に実施した第1回調査の結果を示します。

トロール結果

- ・すべての海区でホッケの漁獲があった
- ・ホッケの体サイズは例年より大きく、ローソクと判断されるホッケはわずかだった

魚探調査結果

- ・南の航走ラインで主な魚群が観察された
- ・観察された魚群数は19で、過去5年で最多
- ・トロールの結果を踏まえると、魚群は大型魚主体である可能性が高い

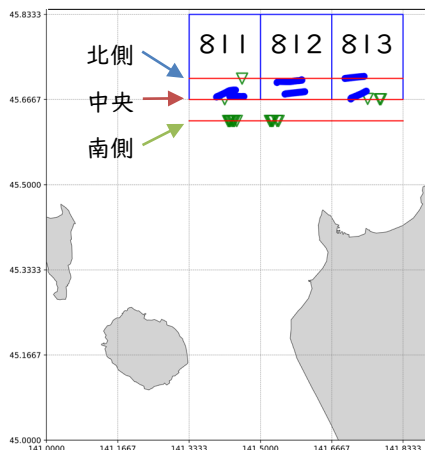


図1. 調査海域

（— トロール操業位置
▽ 魚群観察位置）

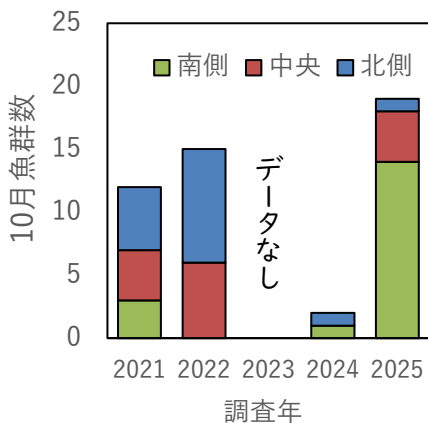
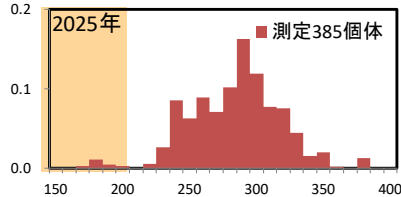
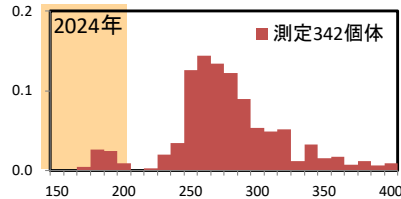
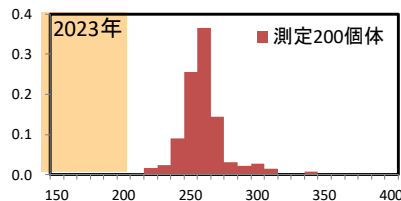
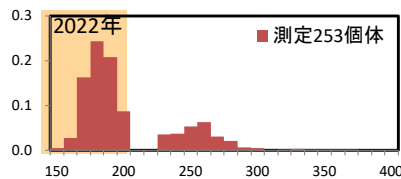
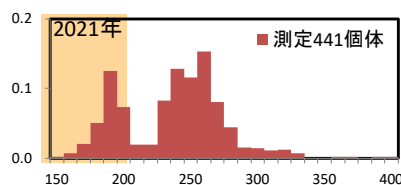


図2. 魚群観察数



体長 (mm)

図3. 採集されたホッケの体長組成（縦軸は尾数割合）

※オレンジの網掛けは、ローソクボッケとされる体長の範囲を表す

まとめ

10月調査では、トロール調査におけるローソクボッケの漁獲はわずかでした。計量魚探調査では、ホッケとみられる魚群が観察されましたが、トロール調査の結果を踏まえるとこれらの魚群は大型魚主体である可能性が高いと考えられます。この結果から、10月時点のノース場におけるローソクボッケの来遊が遅れているか、2025年級群の豊度が低い可能性が考えられます。ただし、豊度については、11月に実施される2次調査の結果と併せて総合的に判断する必要があります。